

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

① い の ち を 大 切 に す る 心 の 教 育 の 充 実 と い じ め や 不 登 校 へ の 細 や か な 対 応	1	一人一人の 児童の尊重	<p>学校は、一人一人の子どもを大切に した指導や対応ができていると思 いますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p>	<p>【学校から】 児童の90%以上、教職員の95%以上が4・3の回答であったが、保護者は80%程度であった。問題が起こった時または困りごとがあった時、児童は学校で解決したり、面談やアンケートを行って児童の様子をこまめに見つめているが、保護者へはそれが伝わっていない可能性も考えられる。また、学習に関しては、「わかる・楽しい」を目指して取組んでいる。テストの点数や宿題プリントの理解度だけでなく、「継続的な学び」に繋がるように学校と家庭とが一丸となって見守っていく必要がある。コロナ禍で授業参観が思うようにできないところもあるが、それを補う方策を考えていきたい。保護者の4・3の評価に関しては、「担任の先生が一人一人をよく見て理解してくださる」「先生の言葉掛けが安心できる」「小さな相談にも放課後対応してくれる」などのご意見もいただいた。</p>
	2	道徳・心の 教育の充実	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の 充実に努めていると思えますか。</p> <p>保護者 教職員</p>	<p>【学校から】 尾ノ上小は心の豊かな児童が多い、と教職員は捉えている。保護者の評価も高いが、「言葉遣いが荒い」や「呼び捨てが多い」など具体的な低評価の理由もいただいた。新年度を待たずに教職員で話し合いを持ち、早速児童に呼びかけ、あらゆる場面で実際に指導を行っているところである。また、あいさつ運動の参加率の高さ、高学年からのボランティア活動の広がり、など良い点は来年度も引き続き継続していきたい。</p>
② 確 か な 学 力 の 向 上 と 社 会 の 推 進 の 推 進 に 対 応 し た	3	授業力向上	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに 努めていると思えますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p>	<p>【学校から】 教職員は95%以上、保護者・児童は90%前後が4・3の評価であり、教師の授業力に高い評価をいただいた。しかし、1評価をつけた5%の児童には特に目を向け、ていねいに学習の学びとらせ方ややる気の醸成に努めていかなくてはならない。一方で、「分かる授業」「楽しい授業」をテストの点数や宿題プリントなどのみで捉えている児童や保護者がいるのではないかと考える。新しい学び方について、折に触れて発信していくとともに、コロナ禍が落ち着いたら保護者が自由に授業参観をしてもらおうなどして、学びの様子を見ていただく機会を増やしたい。</p>
	4	タブレット 端末活用	<p>子どもは、タブレット端末を活用して学習 していると思えますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p>	<p>【学校から】 児童・教職員ともに3・4の割合が高い。タブレットを活用した学習が浸透し、当たり前のように学習の中にあることの表れだと考えられる。児童や保護者の2・1に関しては、家庭でゲームや動画等に使用してしまうなどの姿が影響しているのかもしれない。教職員は、研修や自己研鑽を通して自分の活用レベルが向上し自信をもって学習の中で活用できるようになってきた。来年度も今年度同様スキルアップの場を設けていきたい。また、保護者からは「先生の指導とタブレットのおかげで、意欲的に宿題に取り組み、自学もするようになった」というご意見もいただいたので、使い方だけでなくどんな力をつけるために使っているのか、タブレットを使った学習効果、など学校でのタブレット活用のようすを伝えていく。</p>
③ 教 員 が 子 供 と 向 き 合 う た め の 体 制 の 整 備	5	学校の 支援体制	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育 について、共通理解を図りながら取り組 んでいると思えますか。</p> <p>保護者 教職員</p>	<p>【学校から】 保護者は2割近くが2・1の評価である。教職員間では定期的に会議を持ち、支援について共通理解を図っているが、それを保護者に伝えることは行ってないための低評価であると思われる。何をどこまで伝えるかは今後の課題であるが、保護者も参加できるケース会議や共通理解のための話し合いはいつでも可能である、ということを広く保護者に知っていただき、学校に対する敷居を低くしていくことが大切である。また、ご意見の中に、「支援の必要な子だけに注力して他の児童への学習指導や生徒指導ができていない」というものがあったので、真摯に受け止め、課題として検討していきたい。</p>
	6	共生社会を 担う 人材の育成	<p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互 理解の促進につながっていると思 えますか。</p> <p>保護者 児童 教職員</p>	<p>【学校から】 評価は低くはないが、特別支援教育への理解促進が十分ではなかったという反省点がある。特別支援教育について、新入時保護者説明会や入学式では話しをしているが、その後はそのような機会がない。今後は、懇談会時に特別支援学級担当からの時間をとったり、一学期に特別支援学級のことについて児童に話したことについて学級通信等でお知らせしたりしていく。そして、何より学習や遊びの中で児童同士の交流を行うことを日常のこととし、その姿を保護者の方に見たり感じたりしていただく。</p>

④ 学習に集中できる 策の推進環境づくりと安全対	7	安全と 事故防止	学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。	<table border="1"> <caption>安全教育に関する満足度</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>満足 (満足)</th> <th>不満足 (不満足)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>40%</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>65%</td> <td>35%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>45%</td> <td>55%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	満足 (満足)	不満足 (不満足)	保護者	40%	55%	児童	65%	35%	教職員	45%	55%	<p>【学校から】</p> <p>学校では、児童の命を守ることを第一に考え、事故防止や安全教育につとめている。学校施設の不整備は学校事故につながるため、月一度の安全点検の時だけでなく、日頃から注意深く複数の目で見て、修繕・補修を行っている。ただ、保護者及び児童の評価が教職員に比べて高くないのは、交通ルールや遊び方などの点において、登下校や放課後の児童の姿に危険性を感じておられるからだと考えられる。学校で指導したことを通信等で家庭に知らせたり、再度家庭での指導を依頼したり、などの周知が必要である。周知方法を模索するとともに、地域や家庭と連携し、繰り返し指導を重ねていきたい。</p>
			対象者	満足 (満足)	不満足 (不満足)												
保護者	40%	55%															
児童	65%	35%															
教職員	45%	55%															
8	家庭や地域 との 連携協力	学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。	<table border="1"> <caption>家庭や地域との連携協力に関する満足度</caption> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>満足 (満足)</th> <th>不満足 (不満足)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>35%</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>25%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>20%</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	満足 (満足)	不満足 (不満足)	保護者	35%	65%	児童	25%	75%	教職員	20%	80%	<p>【学校から】</p> <p>尾ノ上校区は地域がたいへん学校に協力的で、放課後等の児童の様子をしっかりと見守ってくださっている。地域・警察・役所との合同通学路点検や不審者情報があった時の見守り、日々の交通指導など、教職員もそのような点を含めて感謝し、高く評価している。また、コロナ禍でもできることを、と、家庭訪問・オンラインでの授業参観・懇談会・運動会・PTA行事など工夫を凝らして教育活動を公開したり学校だより・学年学級通信・メール・HPで発信してきたが、保護者の評価はいま一つ高くはなかった。評価が低かった理由を考察し、今後は双方向型のコミュニケーションの具体的取組を考えていく。</p>	
		対象者	満足 (満足)	不満足 (不満足)													
保護者	35%	65%															
児童	25%	75%															
教職員	20%	80%															

来年度の具体的な取り組みについて

今年度もコロナ禍ということもあり、学校が保護者や地域と直接顔を会わせて話をしたり行事等で触れ合ったりする機会が絶対的に不足していた一年であった。しかし、学校としてはできる限りの工夫を重ね、児童や保護者からも一定程度の高い評価をいただいた。保護者のみならず地域からも常に大きなご協力と応援をいただいております。来年度は、双方向型のコミュニケーション不足を補うことも含めて次のような取り組みを行っていききたい。

- 4月の家庭訪問（戸口訪問）の実施。夏休みの保護者との面談。授業参観と学級懇談会の実施。
- 学年・学級だよりや学校だよりで児童の様子をお知らせするだけでなく、余白に返信欄を設けるなどして地域や保護者からのご意見をいただく窓口を広くする。また、タブレットやスマホのメール機能やアンケート機能を使用し、双方向のコミュニケーションができないかどうか模索する。
- 特別支援教育や共同の学習に関して、保護者の方が参加しやすいケース会議の実施期間や時間帯を検討し、周知する。また、特別支援教育の啓発をより一層図る。
- 学期ごとの児童と担任の個別面談（子どもと向き合う週間）や定期的なアンケート、日頃からの児童との会話により、いじめや困り感をはじめとした一人一人を大切にしたい指導や対応を充実させる。
- コロナ禍であるので、特に学級での仲間づくりを推進する。学級活動や帰りの会を充実させたり学習での対話を増やし、児童の良いところをお互い認め合えるような学級風土を確立させる。
- SC（スクールカウンセラー）や心のサポート相談員の周知を重ねて行うとともに、児童一人一人の自尊感情を高めるためのソーシャルスキルトレーニングも授業で行っていくよう検討する。
- 本年度の成果を踏まえて、確かな学力の向上のために、タブレット活用学習を更に推進させる。思考力・表現力・判断力を育成する学習ツールとして「賢くなるための使い方」を加速させる。タブレットを活用し、一人一人に応じた学びになるよう、更に工夫を重ね研修につとめる。
- 安全と事故防止については、特に「安全教育」の充実を図る。年間計画を見直し、児童に身に付けさせたい自助能力を明らかにし、特に判断力・行動力の面で児童が自身で振り返りができる一年にする。

学校関係者評価

- コロナ禍の中、子どもたちも学校もよく頑張ったと思う。修学旅行など中止になっている学校もある中で、運動会とともに実施に向け努力されたことはとても良かったと感じるし、子どもたちにとって良い思い出作りになったことと思う。良い点はぜひ来年度にも引き継いでもらいたい。
- 1年間しっかり学校運営に取り組んできたことが理解できた。コロナ禍でのICTの取り組みが素晴らしく、教職員が主体的に新しいものを取り入れ、自ら考えていく姿勢が、子どもたちにも良い影響を与えていると思うし、学校が活性化する要因にもなっている。さらに保護者との相互理解を深め、よい学校づくりを目指してほしい。
- コロナ禍の中でも、子ども達、特に5・6年生が素晴らしい活動をしているところがよく分かる。そんな高学年の姿が低学年に受け継がれていくのだと思う。教師の指導も大切だが、基本は家庭にある。学校指定物品などもそうだが、家庭（保護者）の視点を反映させることはとても大切なことである。校長先生の考えが、来年度も踏襲されることを期待している。